

ふくよか

地域で支える医療と介護

2025 | 冬号 ■長崎県病院企業団本部
■令和7年1月発行



根緒の日の出(対馬市)

CONTENTS

- P1 ——— 企業長より
- P2 ——— へき地医療貢献者表彰
- P3 ——— 特集1 | 令和6年度 中堅職員研修報告
- P4 ——— 特集2 | 看護師の確保・育成の取組
- P5 ——— 特集3 | 病院企業団全体で経営改善の取組を進めていきましょう!
- P6 ——— 医療ソーシャルワーカーの活動
- P6 ——— 第21回 長崎の医療と病院経営を考える会
- P7 ——— BREAK TIME

「ふくよか」の由来

医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力を付けて欲しいとの願いが込められています。

令和7年の年頭所感

長崎県病院企業団企業長 八橋 弘

明けましておめでとうございます。
この年末年始は9連休と数年ぶりの長期休暇となりました。病気や怪我には休みがないため、医療機関にとっては大変な9連休だったと思います。「朝が来るのが待ち遠しい」というのが、救急の現場にいる医療スタッフの本音かと思います。休日体制の中で急患対応された企業団職員の皆さん、お疲れ様でした。

昨年の出来事について振り返りたいと思います。社会を取り巻く環境については、国内では地震や大雨などの自然災害が発生し、多くの人々が影響を受けました。また衆議院選挙も行われ、政治の動きが注目されました。海外では紛争が続いており、特に中東地域での緊張が高まりました。そしてアメリカでは大統領選挙が

行われ、これから体制が変わります。また猛暑の夏でした。海水温の上昇で長崎の高島や高浜でも、サンゴと熱帯魚の泳ぐ様子を身近に体験することができるようになったと聞きました。ただ、このまま温暖化が進んだ場合、百年後の地球は大丈夫なのか心配になります。

医療を取り巻く環境については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して以降、行動制限のないコロナ前の生活に戻り、それがほぼ定着しました。対面でのイベントや懇親会も普通に行われ、国内外の旅行に出かける人も多くなりました。しかし、高齢者や基礎疾患のある人、免疫機能が低下した方々には、依然として重篤化する可能性がある病気なので油断大敵です。企業団病院でも、引き続き

以前と同様の感染対策や院内のマスクの着用、面会制限などを継続しています。

最近、「病院の経営が厳しい」という新聞記事やネットの報道をよく目にするようになりました。一部の地域では医療機関の倒産や閉院も珍しくなくなっています。経営の厳しさという点では、企業団病院も例外ではありません。改めて企業団病院の収支を分析すると、コロナ前後で有意な入院患者数の減少はなく、収入は減少していないものの支出が増大していることが分かりました。収支の悪化は、人件費の増大と物価上昇に連動した医療に係る物品費や光熱費の高騰が原因であり、



その上昇に見合った診療報酬の調整が行われていないことが重く押し掛かっています。離島へき地の人口減少が加速している中で、医療の質を落とさずに病院経営を保つにはどうすればよいのか、その答えを日夜考えていました。ある日、似たような状況下にある某病院の看護部長さんから一通のメールが届きました。「人を大切にして、良い医療をしているので、きっと成果は出てくると思っています。」

看護師もいます。混沌とした時代だからこそ医療の本質や医療の原点を見失わないようにしなければならぬ、数字を意識することがあっても数字に惑わされることがないようにしたい、と思っています。

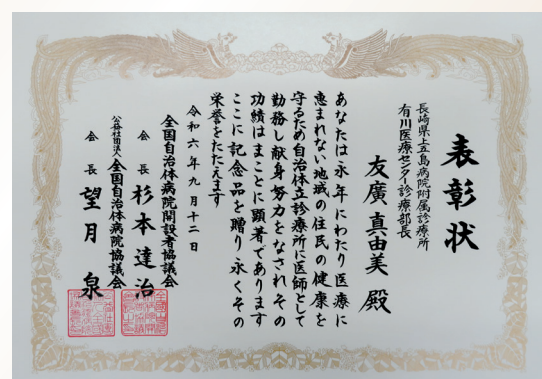
企業団本部は、長崎港ターミナルビルの近くにある大波止にあります。この時期、帰省した方や長崎を訪れる観光客で、ターミナルビル内は人でいっぱいです。「五島やけんよかよ」懐かしい故郷の言葉が大波止の海風に乘って聞こえてきます。同窓会や少し早めの成人式で、普段は閑散とした場所も、多くの若者の笑顔と活気で賑わいます。初詣の神社には、一体どこからこれほど多くの人が集まってきたのかと思うほど多くの参拝者で溢れています。年末年始は、久々に友との語らいに心を躍らせ、家族と共に過ごす時間の大切さを実感する特別な時です。そのような地域に住む人々の健康と命、そして幸せを守るために、企業団病院はこれからも歩み続けます。改めて、この9連休の間に急患の対応をされた企業団職員の皆さんに、心から感謝の意を表します。ありがとうございました。

へき地医療貢献者表彰

有川医療センターの友廣真由美診療部長が、全国自治体病院協議会等より、へき地等の医療確保に長年尽力された医師に対してその功績を称える「へき地医療貢献者表彰」を受賞されました。誠におめでとうございます。

受賞に寄せて

今回の表彰は、個人の実績を評価して頂いたというよりも、長崎県病院企業団の医師確保の取り組みが評価されたものと考えております。目の前の患者様と向き合うことはもちろん、地域医療に従事する医療者がやりがいを感じ、より働きやすい環境を保てるよう、これからも皆様と協力していきたいです。



看護師の確保・育成の取組

看護師の確保・キャリアアップ支援



病院企業団では、看護学生の実習受け入れや養成施設への訪問、各種就職説明会への参加、広報誌やホームページ、SNSなど広報媒体を活用した発信、応援ナースの活用など、日頃から看護師の確保に努めています。

企業団本部でも、11月23日の第10回日本NP学会学術集会(東京都)の展示ブースに出展し、来場のあった診療看護師養成課程の方や現役診療看護師などの方々に、病院企業団の概要や診療看護師育成に係る貸与制度などについて説明を行いました。

来場者からは「病院企業団は資金貸与制度が充実している」「地域医療に関わりたい」といった感想が寄せられるなど、病院企業団の現状や魅力を広く情報発信することができました。また、同学会には、企業団病院から庄山、岩本、寺岡診療看護師が「訪問診療同行を通じて見えた地域における診療看護師(NP)の役割について」など発表を行いました。



▲企業団病院の診療看護師全員で新しいユニフォーム姿で撮影しました!

看護師の資格取得支援制度

病院企業団では、当該職員の認定・診療看護師の資格取得だけでなく、企業団職員以外でも、県内の離島へき地医療に従事する意欲のある看護学生や看護職者に対する診療看護師の資格支援も行っています。ご興味のある方は各病院の総務課、又は企業団本部総務人事班(095-825-2255)までお問い合わせください。

病院企業団のホームページにも制度の詳細を掲載していますので、ぜひご覧ください。▶



	認定看護師育成資金 (企業団職員のみ)	診療看護師育成資金	
貸与の条件	○病院が必要とする認定看護の分野 ○自己啓発等休業を取得して養成施設に通学 ※上記の両方の条件を満たす者	企業団職員／実務経験5年以上の職員 企業団職員以外／① 大学院の修士課程に在学、又は診療看護師実務研修生のいずれかに該当 ② 上記 ① に引き続いて企業団病院に勤務する者	
貸与内容	入学金 授業料 実習料 実費 教科書代 10万円 生活費 25万円／月	修士課程在学中 ● 入学金 50万円以内 ● 生活費 25万円／月	実務研修中 ● 生活費等 25万円／月 ※企業団病院での実務研修は支給しない
免除要件	資格取得日の翌日から起算して、5年間企業団病院に勤務	修士課程在学・実務研修中に貸与を受けた期間の2倍相当の間、企業団病院に勤務	

令和6年度 中堅職員研修報告

11月18日～19日の2日間、長崎市伊王島にあるホテルにて、病院企業団職員として必要な組織マネジメントを学び、職員の一人として誇りと責任を持ち、企業団として一体感の醸成を図ることを目的に中堅職員研修を実施しました。対象者は採用後10年以上の31歳から50歳未満の主任・係長で、各病院から看護師、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師、言語聴覚士の計30名の方が参加しました。

研修目標

- ① 中堅職員として、組織マネジメントについて視野を広げる。
- ② 中堅職員として、管理及び病院経営上求められる自己の役割を明確にする。
- ③ 企業団病院(自施設)の発展のために創意工夫ができる。

研修内容

- ① オリエンテーション
- ② 八橋 弘 企業長による講話
- ③ 講義 「企業団病院の現況・公務員サービスについて」
馬場 秀喜 副企業長
- ④ ミニレクチャー
「地域の病院として災害にどう備えるか」
庄山 由美 主幹

※1日目終了後に、参加者全員で意見交換会を実施



- ① ミニレクチャー
「中堅職員の立ち位置について」
貞方 三枝子 看護管理監
- ② ワールドカフェ方式※によるグループワーク

※リラックスした空間で少人数の話し合いによる創造的なアイデアを生み出す対話手法

研修レポート

○ 今回の研修で、改めて病院企業団の運営状況を理解し、公務員としての自覚と責任ある行動、自己研鑽について学び、中堅職員としてどのように働くべきかなど自分たちの役割について考えました。また、経営改善に向けた取組の提案など、積極的な意見交換も行われました。

○ 最後に病院ごとに現状・課題・対策について発表を行いました。研修中、受講者は講話等を熱心に聞き入り、中堅職員らしく頼もしい姿を見ることができました。

～ 受講された皆さんは、2日間の研修で学んだことを日々の業務に生かし、これからも企業団職員一丸となり、地域で支える医療と介護に貢献していきましょう～



医療ソーシャルワーカーの活動

病院企業団の現場では、多職種が連携して医療を提供しています。今回は社会福祉の立場から患者支援を行っている「医療ソーシャルワーカー」として、吉岐病院患者支援センターで勤務している、安永さんにお仕事の内容やその魅力などについてお聞きしました。



Q 「医療ソーシャルワーカー」とは、どういったお仕事ですか？

A 医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker、以下「MSW」)は、主に医療機関に従事して相談援助の仕事をしています。患者さんが安心して治療に専念できるように生活に関する相談に乗り、課題解決に向けて社会福祉の面からサポートしています。

Q 具体的にどういったことをやられていますか？

A 普段、私は病棟の退院支援業務を主にしたり、患者さん個人が抱える課題を、地域全体の課題に発展させて、様々な機関の方々と協働して吉岐市全体で解決しようとする取り組みも日々奮闘しながら行っています。

Q 働く中で、嬉しかったことは？

A 最もやりがいを感じる場面は、「患者さんが抱えている困りごとが解決し、喜んでくれたとき」「これに尽きます。ごみ屋敷で生活していた方や、身寄りのない方の問題が、本人・関係者と協力し、無事に解決した際の患者さんの笑顔はMSWの原動力となります。

Q それでは困ったことはありませんか？

A 住民が希望するサービスが十分に提供できないことです。例えば、離島の高齢者が「住み慣れた島の施設に入所したい」と希望されても、すぐには入所が出来ないため、本土の施設に入所せざるを得ないことがあります。本土では使えるサービスが離島では制約されることが多いのが現状です。これに関しては、ネットワークの形成や社会資源の開発を地域ごとで考えていかなければなりません。

Q 今後の抱負、皆さんへのメッセージをお願いします。

A MSWは、人と社会の双方に働きかけ、誰もが地域の中で幸せに暮らせるような支援を行います。相談に来ていただく患者さんは誰一人として同じ人はいません。状況は多種多様で、利用できる制度やサービスも千差万別です。いわゆるオーダーメイドな支援の提供が出来るのはMSWだと私は思います。

療養中に何かご心配なことがありましたら、お気軽にご相談いただければと思います。長崎県病院企業団のMSWは素敵な方ばかりだと自負しております。

安永さんインタビューに対応してくださり、ありがとうございました

第21回「長崎の医療と病院経営を考える会」

毎年開催している本会議を、11月5日に長崎市内ホテルで開催し、県内18の公的医療機関の院長・事務責任者などが集まり、経営状況の情報共有や各種取組について意見交換を実施しました。

会議では、長崎大学病院の尾崎誠院長より「長崎大学病院の現状と課題」の講話をいただいた後、各病院の決算状況やDPCデータの報告のほか、取組んでいる経営改善、看護師確保対策、働き方改革につながるDXの事例などについて紹介し活発な意見交換がなされ、非常に有意義な会議となりました。



病院企業団全体で経営改善の取組を進めていきましょう!

1. 令和6年度上半期(4月～9月)の経営状況

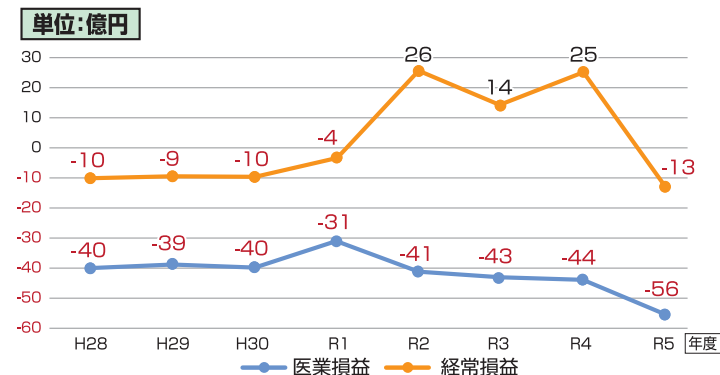
区 分		令和6年度	令和5年度	増 減
患 者 数 (人)	入院延数	168,571	168,441	130
	外来延数	315,109	320,411	▲5,302
1人1日当たり 診療単価(円)	入 院	41,814	41,114	700
	外 来	12,085	12,092	▲7
医業収益 (単位:百万円)	入 院	7,418	7,286	132
	外 来	3,808	3,874	▲66
	計	11,226	11,160	65
医業収支差(単位:百万円)		▲2,293	▲1,925	▲368

【患者数の動向】 昨年度と比較して、入院患者数は島原病院、五島中央病院などで増加、精神医療センター、吉岐病院などで減少して、病院企業団全体では130名の増となっています。外来患者数は島原病院、吉岐病院などで増加、対馬病院、上五島病院などで減少して、病院企業団全体では5,302名の減となっています。

【経営の状況】 昨年度と比較して、入院収益は患者数や1人1日当たり診療単価も増えて収益は132百万円の増、外来収益は患者数や診療単価の減により収益は66百万円の減となっています。結果として医業収益は65百万円増加したものの、それ以上に医業費用が人件費や物価上昇により増加しており、医業収支差は昨年度から368百万円悪化しています。

2. これまでの経営状況、今後の経営改善の取組

- 平成28年度～令和5年度までの過去8年間の医業損益の推移をみると減少傾向にあり、構成団体である県や市町からの繰入金や、新型コロナウイルス対策に係る支援金などを含めた経常損益については、これまでになく令和5年度は減少しています。



- 今後も人口減少に伴う患者減が懸念される中、物価高騰や人件費増が続き、病院経営がますます厳しくなると想定されますので、企業団全体でこれまでに以上に経営改善を進めていきましょう。

- 収益性の高い入院収入を上げるため、さらに診療単価や稼働率を高める取組として、入院料を引き上げるための上位施設基準の取得やDPCコーディングの適正化、加算・指導料等を取得するためのコメディカルの生産性向上などを行いましょ。また、引き続き、経費・材料費の見直し、院内の各種会議等で定期的に対策を講じるなど協議していきましょう。

- 病院経営は厳しくなっており、今後、大きな収益増は見込めない状況ですので、収入については目の前にあることを少しずつ積み上げていく、コストについても少しでも減らしていく取組が重要になってきます。

県内おススメの教会めぐり ～パリと長崎はつながっていた～



BREAK TIME



毎年クリスマスの頃になると信徒ではありませんが、イエスさまが生まれた馬小屋が教会に飾り付けられていて、見に行くのが楽しみになります。私は久しぶりに世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の1つ、大浦天主堂を訪れてみました。

大浦天主堂という建築的価値として「国宝」のイメージが強いですが、この教会は禁教の中にあった1865年3月に、潜伏キリシタンがプティジャン神父に信仰を告白した「信徒発見」が起きた場所です。これにより潜伏キリシタンが表立って信仰を表明するようになり、なお弾圧を続けた明治政府が諸外国の非難によって1873年に信教の自由を認めた、日本の宗教政策の大転換に深くかかわった場所でもあります。

そして、この地は幕末・明治期の日本におけるローマ・カトリックの布教を担った「パリ外国宣教会」が横浜とともに国内拠点とした場所で、当時布教を担った宣教師の書簡によって長崎や日本の情報がパリ本部に伝えられ、今でも「信徒発見」に関する書簡原本が所蔵されています。また、この時代を遡っても、キリスト教をめぐる迫害、殉教事件についての宣教師書簡がヨーロッパに渡っており、東京都の東洋文庫には、18世紀のフランス王妃マリー・アントワネットが所蔵したと伝わる「イエズス会士書簡集」があって、中には長崎の地図が掲載されています。このように実はパリと長崎とは意外とつながっていました。

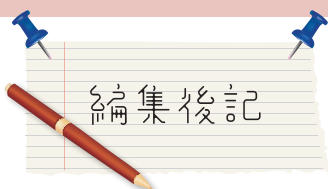
この信教の自由後、潜伏の終焉を迎えた、県内各地のキリシタンの尽力により、雨後の筍のように建てられた教会の数は、教会建築の調査研究に貢献された川上秀人先生の報告によると、日本カトリック教会の総数1,023教会のうち約13%の131教会あり、圧倒的に長崎県内に偏在していることが分かります。

今回は、小職も何度か同行させて頂いた川上先生の調査報告などから、是非訪れていただきたい県内おススメの教会を「個人の感想」も含めていくつかご紹介します。

まず、今村天主堂(福岡県)とともに、大工棟梁 鉄川与助の県内の最も完成された作品とされる田平天主堂(平戸市)は門柱、石段などが当初の状態で残り、正面壁に大戦中の砲弾跡があり歴史を物語ります。島にある黒島天主堂(佐世保市)や旧五輪教会堂(五島市)への見学は、島内の民宿を利用されることをお奨めします。特に五島市久賀島は人工物が映らない海辺の風景があり、とても新鮮な気持ちにさせてくれます。長崎市外海の出津教会堂、旧出津救助院は、建物内部の列柱の並びなどからフランス人であるド・ロ神父の建築の堅牢さ、崇高な精神を体感できる建物です。旧野首教会(小値賀町)へ訪れる際はパワースポットの沖ノ神嶋神社・王位石を、頭ヶ島天主堂(新上五島町)については、石づくしの崎浦地域の集落を訪れると、石造の教会が出来た背景が分かります。

今回も最後に心に残った一言。詩人の谷川俊太郎さんの「私が歌うわけ(あなたが手掛けている仕事、それを行おうとしているのはなぜですか?)」、コンテスト荒らしで舞い上がっていた中島みゆきさんを一からやり直し3年後のデビューとさせた、この言葉。新しい年を迎え、改めて自分の心にこの言葉を投げかけているところです。

(文:副企業長 馬場秀喜)



明けましておめでとうございます。今年は『巳年』です。蛇といえば、運氣・金運の縁起物として定番ですが、たくましい生命力、脱皮のたびに表面の傷が治癒することから、復活・再生の象徴ともされているそうです。そのことから、新しいことが始まる1年になると言われているので、何か挑戦してみると『巳(実)を結ぶ』かもしれないですね。[S.O]

表紙・裏表紙写真提供:(一社)長崎県観光連盟

令和7年1月発行
編集・発行/長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
[E-mail] honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
[URL] https://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp

◎上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を どんどんお寄せください!

地域で支える医療と介護



長崎県病院企業団

検索

長崎県病院企業団
ホームページ

